

◆連載

いま留萌をかし

●昭和8年の十字街

昭和8年3月留萌市民待望の留萌築港が完成し、8月8日、全町を挙げて盛大に留萌

築港竣功祝賀会がひらかれた。留萌町の商店会も全商店を挙げて大売出しをおこなって、

祝賀気分を盛り上げた、大通りに面した商店には、大売出しのぼりが立ち、ちんどん

やがピラを撒きながらねり歩いた。

ここに、留萌築港竣功を記念して町内の有志に配られた一枚の地図がある。

これを見るとその当時の留萌の商店の様子が一目で浮かんで来る。

当時の一番の繁華街は現在の十字街を中心に東西南北に広がっていた。十字街を基点にその当時の商店を追ってみよう。

現在の近藤薬局から西にむかって、

橋本洋品店、亀屋米穀店、柴崎精肉店、若林呉服店、田端

呉服店、北海道拓殖銀行、阿品店、井田薬局、広見理髪店、

部文具洋品店。北の向いに渡って、

安藤茶舗、加藤印舗、池田下駄屋、文洋堂、土岐傘店、東

薬局、博品館、伊藤洋服店、公衆食堂、菅原自転車店、柳

品店、井田薬局、広見理髪店、北海道銀行。

南大通りを南に向かつて、

北の向いに渡って、

野自動車部、宮丸理髪店、山谷豆腐店、増屋精米所、荒潮

社、千草屋毛糸店、坂垣洋服店、カフエーギンザ、桐沢家

具店。

古野金物店、替地薬局、虎屋菓子店、増谷洋服店、山藤病院、ミニヨン、青木新聞店、

工藤魚店、吉田餅店、キング醸造会社。

十字街を中心にこれだけの店が軒を列ねていた。現在も

留萌で店舗を構えている店もある。五十年という月日のうちには消え去っていった店も

少なくない。

また、留萌の商業地も変遷して来た。明治の創業時代には、川北、旧市街がその中心

地であり、大正から昭和の初めにかけては十字街、そして

現在は神社下から開運町へと商業地が広がるようになっている。興味深いものがある。そして、留萌の商店街が更に華やかに活気付いていることを期待したい。



大正14年1月、大留萌建設事業が終了して出された写真帳の中から